

「隙あらば猫 町田尚子絵本原画展」

2022.10.11 佐々木真理 (facebook より訂正加筆)

猫が描かれた小さな缶を友人からもらいました。イラストレーターで絵本作家である町田尚子さんの原画展を観に行ったところ、私にどうしてもあげたくなつたとのこと。彼女の子想通り私はその缶をととても気に入り、蓋を開けたり閉めたり、上から下から眺めまわしニタニタしていました。

町田尚子さんの作品では、絵本「ネコツメのよる」や京極夏彦作の怪談えほん「いるのいないの」の挿絵で知っており、インパクトのある絵だなと思っていました。特に「いるのいないの」は本屋で立ち読み厳禁の絵本です。なぜなら最後のページで思わず「ひーっ！」と声が出てしまうからです。(試しにぜひ立ち読みしてみてください)

もらった缶を愛でているうち、その原画展に無性に行きたくなつたので友達をさそってみると、彼女も観に行きたいと思っていたところとのことで、おばさん二人の遠足が決まりました。しかも誘った翌日という急ごしらえです。

「隙あらば猫 町田尚子絵本原画展」 会場は尾道市立美術館です。久しぶりに敢えてJRでトコトコ東へ。気分は乙女。ずーっとしゃべりっぱなし。天気も良かったので、尾道駅から千光寺公園内の美術館まで、弾力と油分の抜けた足腰を酷使して、ロープウェーを使わずに徒歩で坂を階段を登って行きました。会場に着くと入り口の前から猫のオブジェだらけ。そこでふと思い出しました。ここって、ネットで「美術館に入ろうとする猫のケンちゃん」と警備員さんの攻防」で有名な美術館では?! はたしてその通り。その警備員の馬屋原さんに会えました。ケンちゃんは朝来ていたそうですが、私たちが来た時にはもう帰ってしまっていたので会えませんでした。警備員の馬屋原さんはそれはそれは優しく素敵なおじさんで、ケンちゃんが馬屋原さんを大好きなのも分かります。馬屋原さんが来るのは特別展の時だけで、ケンちゃんが来るのはもっぱら馬屋原さんが警備をするときなのだそうです。詳細を知りたい方はネットで検索してみてください。萌えますよ。

さて「隙あらば猫」展。良かった。想像をはるかに超えるほど感動しました。観に行つて本当に良かった。印刷物では分からない原画の美しさや繊細さ、表情の豊かさ、木の葉や草一本一本にまで気持ちが込められていて、ある時はコミカル、またある時は背筋がぞつとするような原画に圧倒されました。その観察眼の鋭さに感服し、色彩も本当に美しく幻想的です。猫の絵で有名で、その猫たちの表情や仕草に猫好きは深く頷きますが、私は人間の描写に驚きました。人物の気持ちが伝わってくるのです。「マッチ売りの少女」の挿絵でも少女の切ない気持ちが痛いほど伝わってくるのですが、ラストの場面では少女の姿は描かれておらず、描かれているのは町の人たちの後ろ姿。でもそれだけで少女が亡くなったことが分かるように描かれています。

友人と感慨にふけりながら千光寺を参りつつ下りていき、昼食をとりました。と、その時気が付いたのです。「帽子がない！」愕然。千光寺で3か所お参りし、その都度帽子をとってお参りしたことは覚えていました。最後にお参りしたところから商店街に下りてくるまでに落とされたに違いありません。友人が「来た道に戻ってみよう」と言ってくれたのですが、坂道と階段。申し訳なき過ぎて「安物だし(これ本当)、よくある帽子だからいいよいいよ(本当は気に入っていた)」と言うと、心優しい友人は「楽しいじゃん。また歩こうよ」と言ってくれるではありませんか。

「この子（おばさん）、天使？」と深く深く感謝し、昼食をとって元気を取り戻した後、また来た道を歩いて戻りました。来た道…のはずなのですが…行きと帰りでは風景が違って見え（こうやって遭難するんだな）…結局来た道とは違う道を上って、最後に参拝したところに着きました。しかしこの戻った道は「猫の道」という名がついていて、面白かったのが救いでした。そしてその参拝所を見渡しましたが帽子は見当たりません。「仕方ないわー。ありがとうね、下りよう」と諦めかけたところ、友人が「ちょっと脇の辺り見てみる～」と言って参拝所の脇を覗いて、「あったあー！」と帽子を持って出てくるではありませんか。「この子（おばさん）、天使？」「この子（おばさん）、天使！！」そしてこの参拝所で花咲か爺さんのお賽銭をエイッと大判振る舞いして拝み倒し、そしてこの天使にも、いえ、この天使にこそ拝んだ次第です。

下りの道は、今度は文学の道。これで千光寺へ通じる道を制覇したかもしれません。

千光寺に、天使（友人）に、帽子を拾って掛けてくれた人に、素敵な一日を過ごせたことに、すべてに感謝した一日でした。

帰宅したら歩数は 15,000 歩。坂道に階段。でも暑過ぎず好天で散策には最適でした。幸せ。

後日談

翌日朝のウォーキングをしていると、歩道の街路樹の根元に立派な「さるのこしかけ」を発見。幅 40cm 奥行 20cm くらいもあり、子猿なら十分座れる広さです。スマホを取り出し写真を撮りました。そして帰宅して、マスク（狭い歩道ですれ違う人に挨拶するときに取り出して着ける）を定位置に置こうとして気づきました。「マスクがない！」さるのこしかけを撮るのにスマホを取り出したときに落としに違いないと気づきました。不織布の使い捨てマスクならまだしも自作のマスク。他人に触らせるのは申し訳ない。ということで、さるのこしかけまで戻ってみるとちゃんとありました。

落とし物に注意だなあ～、年だなあ～、と反省した次第です。

更に後日談

町田尚子展に感動した私は、なんと再度観に行ったのであります。とっぴんばらりのふう。



←失くしかけた帽子を被って 町田尚子さんの原画（尾道市立美術館のために描かれた）の前で。